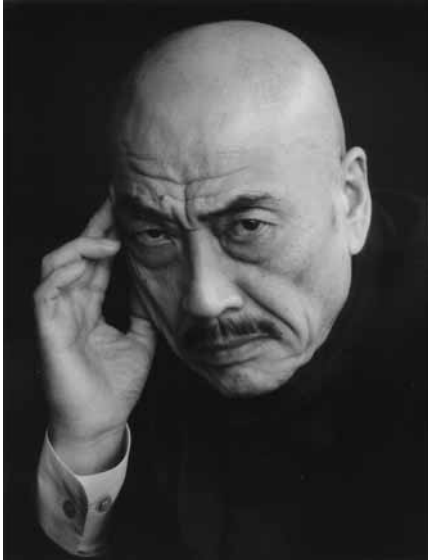


舞踏家 磨赤兒の大駱駝艦 南米初上陸

熱烈な招待を受けサンパウロ市などで「人の秘密」 3公演が実現



国際交流基金(ジャパンファウンデーション)はブラジル社会サービス商業連盟(SESC/セスキ)との共催により、2010年11月にブラジルにおいて大駱駝艦の舞台公演を実施します。この公演は国際交流基金がSESCからの強い要望に応じて実施するもので、磨赤兒の振付・演出・主演作品「人の秘密」を、サンパウロ州のサンパウロ市とサントス市において計3回上演します。

SESCはブラジルの企業家連盟がブラジル国民の文化教養環境を整備する使命をもって1964年に設立した非営利団体であり、ブラジル全土に文化センター施設を保有して活発な文化活動を展開しています。これまでパパ・タラフマラ、りんけんバンド、維新派、薪能など、日本の舞台芸術を数多く紹介してきました。

今回の公演が実現した背景には、国際交流基金の招へいによりSESCの関係者が2006年に来日し、日本の舞台芸術事情を視察した時に大駱駝艦の舞台に強い印象を受け、ブラジル公演の実現を爾来熱望してきた経緯があります。

大駱駝艦 1960年代小劇場運動の代表的な劇団であった状況劇場の創設に参加した磨赤兒が中心となって1972年に旗揚げした舞踏グループであり、20数名の舞踏手によるスケールの大きなスペクタクル性の強い舞台を持ち味とする。その創設には天児牛大(現、山海塾) 室伏鴻(現、Ko & Edge . Co) 大須賀勇(白虎社、解散) ピシヨップ山田(北方舞踏派、解散) 田村哲郎(ダンスラブマシーン、解散)などが結集し、多くの舞踏グループの母体となった。1982年の米国(アメリカン・ダンス・フェスティバル)とフランス(アヴィニオン・フェスティバル)での公演を皮切りに、米国、カナダ、フランス、韓国などで海外公演を重ね、2010年10月にはメキシコセルヴァンティーノ国際フェスティバルで上演。

磨赤兒 大駱駝艦主宰者の磨赤兒は1943年奈良県生まれ。「ぶどうの会」を経て舞踏家土方巽に師事。1964年に唐十郎と「状況劇場」を設立、劇団主宰者唐十郎の「特権的肉体論」の具現者として活躍した。1972年に大駱駝艦を旗揚げした後も大島渚、鈴木清順、Q. タランティーノ作品を含む映画やテレビに数多く出演している。1974年、1987年、1996年、1999年、2008年に舞踊評論家協会賞を受賞し、2006年には文化庁長官表彰を受賞した。

大駱駝艦「人の秘密」 ブラジル公演日程

サンパウロ州サンパウロ市(セスキ・ピニエイロス劇場)

2010年11月3日(水) 21:00~

11月4日(木) 21:00~

サンパウロ州サントス市(セスキ・サントス劇場)

2010年11月6日(土) 21:00~



お問い合わせ: 国際交流基金 文化事業部 舞台芸術チーム 担当: 荻野

電話: 03-5369-6063 Fax: 03-5369-6038 E-mail: butai2010@jpf.go.jp

大駱駝艦と磨赤兒の履歴や上演作品については大駱駝艦へお問い合わせ下さい。

大駱駝艦担当: 新船(キャメルアーツ株) 電話: 0422-21-4982 Fax: 0422-21-4983 www.dairakudakan.com